

資料2

科学技術イノベーション政策  
のための科学推進委員会  
(第20回) H27. 9. 9

事 項	前 年 度 予 算 額	平成28年度 要求・要望額	比 較 増 △ 減 額	
	百万円	百万円	百万円	
<b>7. 社会とともに創り進める科学技術イノベーション政策の展開</b>				
	7,531	7,646	115	〔うち、 「優先課題推進枠」 947百万円〕
<p>○概要： 「社会及び公共のための政策」の実現に向け、科学技術コミュニケーション活動の更なる促進等、国民の理解と信頼と支持を得るための取組を展開する。また、研究開発システムの改革を推進することで、科学技術イノベーション政策の実効性を大幅に高める。</p> <p>◆<u>科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の推進</u> 634百万円( 694百万円) 課題対応等に向けた政策を立案する「客観的根拠に基づく政策形成」の実現に向け、具体的な政策オプション立案を担う中核的拠点機能を充実するとともに、基盤的研究・人材育成拠点間の連携を強化するなど、「政策のための科学」を推進する。</p> <p>◆<u>戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）【拡充】</u> 1,790百万円(1,731百万円) 自然科学に加え、人文・社会科学の知見を活用し、広く社会の関与者の参画を得た研究開発を実施するとともに、フューチャー・アース構想を推進することにより、社会の具体的問題を解決する。特に、ICTの飛躍的な進展に対応し、IoT、ロボット、AIなどによる社会の変容を考慮した人間と人工物（機械）の新しい関係を構築し、ICTがより安全かつ快適に社会で活用されるための研究開発を推進する。</p> <p>◆<u>科学技術コミュニケーション推進事業</u> 2,616百万円(2,616百万円) 多様な科学技術コミュニケーション活動を促進するため、日本科学未来館等のコミュニケーション活動の場の運営・提供、科学技術コミュニケーターの人材養成、活動支援、科学技術コミュニケーションに係る調査・研究開発等を実施する。</p>				

## 7. 社会とともに創り進める

### 科学技術イノベーション政策の展開

「社会及び公共のための政策」の実現に向け、科学技術コミュニケーション活動の更なる促進等、国民の理解と信頼と支持を得るための取組を展開する。また、研究開発システムの改革を推進することで、科学技術イノベーション政策の実効性を大幅に高める。

平成28年度要求・要望額 : 7,646百万円  
うち優先課題推進要望額 : 947百万円  
(平成27年度予算額 : 7,531百万円)

※運営費交付金中の推計額含む

#### ○科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の推進

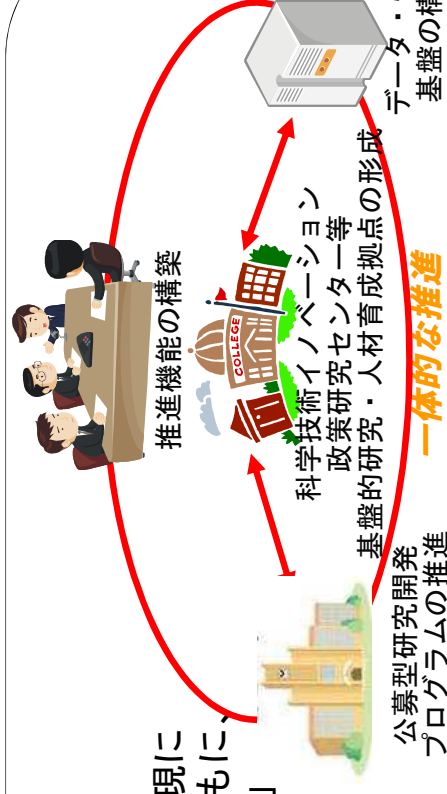
- 課題対応等に向けた政策を立案する「客観的根拠に基づく政策形成」の実現に向け、具体的な政策オプション立案を担う中核的拠点機能を充実するとともに、基盤的研究・人材育成拠点間の連携を強化するなど、「政策のための科学」を推進する。

#### ○戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)

- 自然科学に加え、人文・社会科学の知見を活用し、広く社会の関与者の参画を得た研究開発を実施するとともに、フューチャー・アース構想を推進することにより、社会の具体的問題を解決する。
- 特に、ICTの飛躍的な進展に対応し、IoT、ロボット、AIなどによる社会の変容を考慮した人間と人工物(機械)の新しい関係を構築し、ICTがより安全かつ快適に社会で活用されるための研究開発を推進する。

#### ○科学技術コミュニケーション推進事業

- 多様な科学技術コミュニケーション活動を促進するため、日本科学未来館等のコミュニケーション活動の場の運営・提供、科学技術コミュニケーションの人材養成、活動支援、科学技術コミュニケーションに係る調査・研究開発等を実施する。



科学技術イノベーション政策のための「政策のための科学」の推進

#### 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)

←「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」  
[戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)]の  
成果(8輪すべてが動輪のEVコミュニケーション  
ピエール)

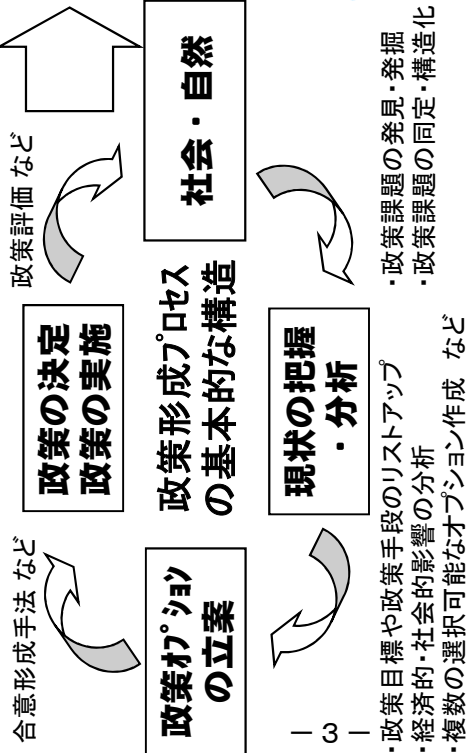


科学技術コミュニケーション推進事業

# 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の推進 ～客観的根拠に基づく合理的な政策決定のための科学～

## 事業全体の目標

- 様々な社会的課題のうち、科学技術イノベーション政策によって解決すべき課題を科学的な視野から発見・発掘すること。
- 政策課題を同定し、経済的・社会的影響分析を盛り込んで選択可能な複数の政策オプションを立案すること。
- 立案された政策オプションを合理的に選択し政策を決定・実施することにより、政策課題の解決を目指すこと。



平成28年度要求・要望額 : 634百万円  
うち優先課題推進要望額 : 24百万円  
(平成27年度予算額 : 694百万円)

## 基盤的研究・人材育成拠点の形成

- ・エビデンスに基づく政策の実践のための指標、手法の開発等を行う中核的拠点機能の充実
- ・大学院を中核とした国際水準の拠点の構築、拠点間共同プログラムの開発及び展開
- ・新たな領域における拠点の整備

503百万円  
(543百万円)

## 公募型研究開発プログラムの推進

- ・中長期で政策形成に寄与しうる分析手法、指標開発等の研究開発を公募により推進

※JST運営費交付金により実施

51百万円  
(51百万円)

文部科学省  
推進委員会

## 事業全体の進め方検討 事業全体関連の調査分析

## データ・情報基盤の構築

- ・政策形成や調査・分析・研究に活用しうるデータや情報を体系的・継続的に蓄積

80百万円  
(100百万円)

# 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）

## 目的

自然科学に加え人文・社会科学の知見を活用し、広く社会の関与者の参画を得た研究開発により社会の具体的問題を解決する。情報通信技術と人・社会の関係の再構築のための実践型研究開発を新たに開始する。

## 社会技術とは

自然科学と人文・社会科学の複数の領域の知見を統合して新たな社会システムを構築していくための技術であり、社会を直接の対象とし、社会において現存あるいは将来起きることが予想される問題の解決を目指す技術。

## 推進方法

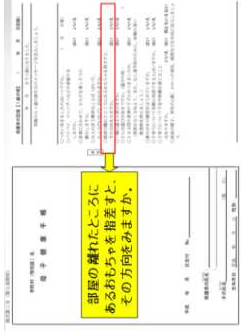
- 国の方針等を踏まえ研究開発領域を設定し、公募により、採択プロジェクトを決定。領域総括の強力なマネジメントのもと、研究開発を推進。
- 社会の問題解決に取り組む多様な関与者との協働、人的ネットワークの構築を行い、問題解決のための基盤を構築

## 成果

- 津波防災では、警報が発令されても、危機感が薄く避難しない人が多いことが問題とされてきたが、津波災害総合シナリオ・シミュレータを活用した津波防災啓発活動が実を結び、釜石市では東日本大震災当日登校していた約3,000名の市内小中学生全員が無事に避難することができた。



釜石市立鶴住居小学校の津波防災学習



母子健康手帳への実装

- 社会的発達の困難を抱える子どもたちの多くは困難の早期徴候が見逃されているために支援を受ける機会が乏しいことから、発達障害の子どもへの早期診断に係る研究を実施。その成果に基づき作成した乳幼児自閉症チェックリストの1項目（共同注意行動に関わる項目）が、母子健康手帳の改定に際して取り入れられた。

平成28年度要求・要望額 : 1,790百万円  
うち優先課題推進要望額 : 316百万円  
(平成27年度予算額 : 1,731百万円)

※運営費交付金中の推計額

## 社会技術研究開発センター（RISTEX）

社会技術研究開発主監会議

センター長

運営評価委員会

### 領域探索、ネットワーク形成等(問題解決のための連携・協働の基盤の構築)

…社会の具体的な問題が現出するコミュニティや現場における経験的かつ実践的な知見を重視し、センターのシンクタンク機能とファウンディング機能を一体的かつ機動的に運用し、社会技術研究開発を効果的に推進。

### 企画運営室

## ○研究開発領域・プログラム

＜領域・プログラムの推移＞

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域															
「コミュニティがなぐ安全・安心な都市・地域の創造」研究開発領域															
「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域															
「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域															
「超サイバー」が浸透した社会における変化への対応力強化(仮称)															
問題解決型サービス科学研究開発プログラム															
科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム															
研究開発成果実装支援プログラム(公募型)															
研究開発成果実装支援プログラム(成果統合型)															

○「フューチャー・アース」構想の推進 (H26～)

# 科学技術コミュニケーション推進事業

平成28年度要求・要望額 : 2,616百万円  
 うち優先課題推進所要望額 : 262百万円  
 (平成27年度予算額 : 2,616百万円)  
 ※:運営費交付金中の推計額

多様な科学技術コミュニケーション活動を促進するため、日本科学未来館等のコミュニケーション活動の運営・提供、科学技術コミュニケーションタワーの人材養成、活動支援、科学技術コミュニケーションに係る調査・研究開発等を実施する。

## 多様な科学技術コミュニケーション活動の推進 648百万円 (648百万円)

### 科学技術コミュニケーション人材養成・手法等開発

実践を通じた科学技術コミュニケーション手法の調査分析・研究開発を強化し、効果的な事業活動を実施するとともに、事業の成果を国内外に普及。

展示手法

科学コミュニケーション人材養成

### 科学技術コミュニケーションの推進

科学技術コミュニケーションを効果的に推進していくため、大学、研究機関等と連携して、基礎的な調査研究等を実施。

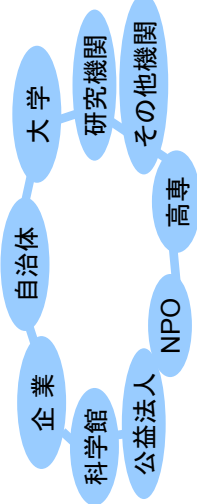


連携

### 科学技術コミュニケーション支援

社会問題や社会ニーズに対する課題の解決を図る取組を支援。

ネットワーク形成



### 対話協働推進

多様なステークホルダーによる対話・協働の活動を、さらなる研究・イノベーション・社会的課題の解決につなげる「共創」の場を構築。

## 「共創」の場の構築

## 科学技術コミュニケーションフィールドの運営 1,968百万円 (1,968百万円)

### 日本科学未来館の運営



最先端の科学技術と社会の関わりや可能性について共有する、他の科学館等の中核的な施設。

### 科学とつながるポータルサイト

インターネットや各種メディアを通して科学技術に関する情報を幅広く発信。国民と研究者等の間で認識の共有。

連携

### 科学技術対話促進

科学技術コミュニケーション活動を図る場を運営・提供。

連携

